



大阪・東京に於いて新規メンバーによる初めての委員会があり、そこで今期のスローガンについて話あいました。昨年の事故の中で最も多かったのが、フォーク事故と人的要因による事故でした。これらの事故の元をたどると結果的に『ヒューマンエラー』によるものが多くなっています。『ヒューマンエラー』はどのようなときに起こるのでしょうか。様々な要因がありますが、最も代表的なものといえば『慣れ』です。ヒューマンエラーは慣れたときこそ起こるものなのです。初めて作業するものに対して、ほとんどの人が注意を払いながら作業をするはずで、それは自分がまだ未熟者であることを自覚し、安全確認を実行していることが一番の理由です。初心者から中級者になり始めたころが一番危険です。経験を積むと、自分の技術や知識を過信してしまいます。慣れたことで自信をつけてしまい、逆に安全確認を怠ってしまいます。ということで、今期の標語は

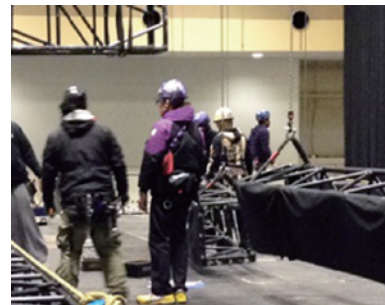
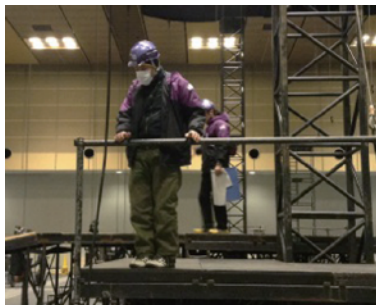
慣れた作業にかくれた危険 いつも初心で 安全確認

となりました。みなさんももう一度、初めて作業していたことを思い出して、安全を意識しながら作業しましょう。



UNIFORM

2月の始めに、社員に冬服をお渡ししました。みなさんどうでしょうか。身も心も暖まっていればなによりです。ヘルメットもジャンパーも紫色です。現場に於いて、けっこう目立つ配色となっておりますので、どこにいても日本ステージをアピールできますよ!! 右の写真は、現場で実際に着用している様子です。



フォークリフト事故0への挑戦

前述した通り昨年の事故の中でフォークリフトの事故が約半分を占めていました。今期はフォーク事故が0になるように、さまざまな取り組みをしていこうと考えております。前回の委員会で取組みについて話し合われ、下記の2つの対策ができましたので、今回大阪の現場において試行してみました。

①フォークのツメに目印を設ける。

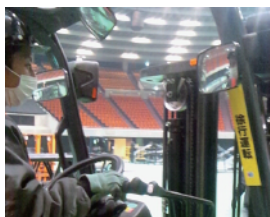


フォークのツメに写真のように、先端から距離を記入することで、ツメ先端が荷物で隠られても、距離が目印となり、壁の追突など避けることができる。

～次回への課題～

フォークを何度も使用するので、目印が荷物とこすれ、とれていくという問題が・・・。

②フォークオペに対して注意を促すステッカーを設ける。



右下のステッカー（マグネット式）をフォークの前方のフレーム位置に貼ることでオペレーターに対して注意を促し、安全を常に意識させる。

～次回への課題～

サイズの調整とはがれにくくすること。今回5枚貼ったが1枚しか回収できず・・・。



大阪の現場に於いて、フォークオペレーターとして活躍されている 株式会社 Bears の大原さんに聞きました。

まず、今回このような取り組みをして頂きまして有難う御座います。フォークリフトの安全警鐘の活動として新しいアプローチだと思います。目に入るような形で注意を促すポスターなどは既にあるとは思いますが、フォークリフト自体に貼る事で作業者が自然に目にとまることで、その効果はポスターよりも高いものになると思います。

フォークリフトに乗る作業者は常に選任の人が乗るという事ではありません。ツアーの方も乗りますし、他にも普段乗ることがない人が乗らないといけない状況がある中で、注意喚起を促す事は、周りの人の声掛けやポスターだけでは、なかなか難しいものがあると思います。

フォークリフト作業者本人の安全意識が何よりもまず大切になってくると思いますが、しかしそれも作業に追われると集中するあまりどうしても視野が狭くなり、安全を意識した運転できなくなる場合が多いと思います。しかし今回のマグネットはふとした瞬間に目に入りこんでくるので、作業者が集中して視野が狭くなりがちの時でも、安全意識を忘れずに作業に取りかかれるように思います。フォークの爪へのマーキングや今回のマグネットなど作業者本人に近いアプローチはいわゆる即効性が高いように感じますので、これからも是非活動していつてもらいたいと思います。